

摂食・嚥下能力のグレード

摂食・嚥下能力のグレードは1993年に発表されて以来学会発表や論文に使用されてきました。しかし、いわゆる「できる」を評価しているため、嚥下造影や嚥下内視鏡検査に基づいた判断が求められます。「グレード」と「レベル」の両方を用いることで治療目標が明確となり、患者さんの指導にも役立ちます。

I 重症 経口不可	Gr.1 嚥下困難または不能 嚥下訓練適応なし
	Gr.2 基礎的嚥下訓練のみの適応あり
	Gr.3 条件が整えば誤嚥は減り、摂食訓練が可能
II 中等症 経口と代替栄養	Gr.4 楽しみとしての摂食は可能
	Gr.5 一部(1-2食)経口摂取が可能
	Gr.6 3食経口摂取が可能だが代替栄養が必要
III 軽症 経口のみ	Gr.7 嚥下食で3食とも経口摂取可能
	Gr.8 特別嚥下しにくい食品を除き 3食経口摂取可能
	Gr.9 常食の経口摂取可能 臨症的観察と指導を要する
IV 正常	Gr.10 正常の摂食・嚥下能力

藤島一郎: 脳卒中の摂食・嚥下障害. 医歯薬出版, 1993より一部改変



ヘルシーフード株式会社

〒191-0024 東京都日野市万願寺1-34-3

リーフレットのご依頼は
<http://www.healthy-food.co.jp>
 TEL.042-581-1191

ご購入はメールまたはFAXにてお願いします
 E-mail: info@healthy-food.co.jp
 FAX: 042-581-2170

摂食・嚥下障害の質問紙

あなたの嚥下(飲み込み、食べ物をお口から食べて胃まで運ぶこと)の状態について、いくつかの質問をいたします。いずれも大切な症状です。A、B、Cのいずれかで答えて下さい。この2、3年のことについてお答え下さい。

1 肺炎と診断されたことがありますか? A. 繰り返す B. 一度だけ C. なし
2 やせてきましたか? A. 明らかに B. わずかに C. なし
3 物が飲みみにくいと感ることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
4 食事にむせることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
5 お茶を飲むときにむせることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
6 食事中や食後それ以外の時にも、のどがゴロゴロ(たんがからんだ感じ)することがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
7 のどに食べ物が残る感じがすることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
8 食べるのが遅くなりましたか? A. たいへん B. わずかに C. なし
9 硬いものが食べにくくなりましたか? A. たいへん B. わずかに C. なし
10 口から食べ物がかぼれることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
11 口の中に食べ物が残ることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
12 食物や酸っぱい液が胃からのどに戻ってくることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
13 胸に食べ物が残ったり、つまった感じがすることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
14 夜、咳で寝られなかったり目覚めることがありますか? A. しばしば B. ときどき C. なし
15 声がかすれてきましたか?(からがら声、かすれ声など) A. たいへん B. わずかに C. なし

判定

Aの回答: 一つでもあれば摂食・嚥下障害ありと判定、数が多ければより重症
 Bの回答: 一つでもあれば摂食・嚥下障害の疑いあり、数が多ければより疑いが強い
 Cの回答: Cのみの時は摂食・嚥下障害の可能性はきわめて低い

大熊るり, 藤島一郎 他: 摂食・嚥下障害スクリーニングのための質問紙の開発 日摂食嚥下リハ学会誌(1): 3-8, 2002

この質問紙は水飲みテストと同等のスクリーニングになります。経時的に実施すれば変化を捉えることも可能です。A、B、C以上に選択肢を増やすと信頼性が低下するため、あえて3択にしてあります。

摂食・嚥下障害患者における摂食状況のレベル

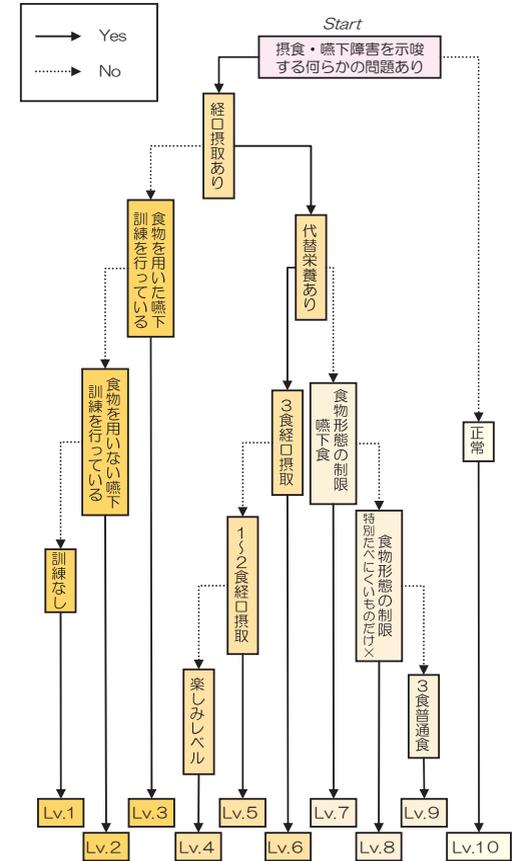
摂食・嚥下障害患者さんがどのくらい食べられているかを評価する簡便な基準を作成いたしました。信頼性と妥当性の検証もしております。この評価基準は「している」をそのまま評価します。嚥下造影や内視鏡検査が行えない施設や在宅でも使用可能です。

*摂食・嚥下障害を示唆する何らかの問題あり	経口摂取なし	Lv.1 嚥下訓練を行っていない
		Lv.2 食物を用いない嚥下訓練を行っている
		Lv.3 ごく少量の食物を用いた嚥下訓練を行っている
	経口摂取と代替栄養	Lv.4 1食分未満の嚥下食を経口摂取しているが(楽しみレベル) 代替栄養が主体
		Lv.5 1-2食の嚥下食を経口摂取しているが 代替栄養が主体
		Lv.6 3食の嚥下食経口摂取が主体で 不足分の代替栄養を行っている
	経口摂取のみ	Lv.7 3食の嚥下食を経口摂取している 代替栄養は行っていない
		Lv.8 特別食べにくいものを除いて 3食経口摂取している
		Lv.9 食物の制限はなく、3食を経口摂取している
		Lv.10 摂食・嚥下障害に関する問題なし (正常)

* 摂食・嚥下障害を示唆する何らかの問題: 覚醒不良、口からのこぼれ、口腔内残留、咽頭残留感、ムセなど
 嚥下訓練: 専門家、またはよく指導された介護者、本人が嚥下機能を改善させるために行う訓練
 嚥下食: ゼラチン寄せ、ミキサー食など、食塊形成しやすく嚥下しやすいように調整した食品
 代替栄養: 経管栄養、点滴など非経口の栄養法
 特別食べにくいもの: パサつくもの、堅いもの、水など

藤島一郎, 大野友文 他: 「摂食・嚥下状況のレベル評価」簡便な摂食・嚥下評価尺度の開発. リハ学会誌43: S249-2006
 Kunieda.K., Ohno.T., Fujishima.L., Hojo.K., Morita.T.: Reliability and Validity of a Tool to Measure the Severity of Dysphagia: The Food Intake LEVEL Scale. Journal of Pain and Symptom Management, Vol. 46(2), 201-206, 2013

摂食・嚥下障害患者における摂食状況のレベル評価フローチャート



レベル判定Q&A

摂食・嚥下状況のレベル評価のQ&Aをいくつかお示しします。疑問点はお問い合わせ下さい。
なお、摂食・嚥下障害の存在が不明の場合はこのパンフレットに掲載した質問紙でスクリーニング判定を行って下さい。

【Lv1とLv2】

Q1 口腔ケアだけを行っているときはLv1ですか？Lv2ですか？

A Lv1とLv2の場合があります。

解説

口腔ケアを口腔周囲筋や唾液腺の廃用予防目的の嚥下訓練として捉えている場合はLv2としますが、単に口腔清掃のみを目的とした口腔ケアの場合はLv1とします。

【Lv3とLv4】

Q2 毎日ゼリーやプリンを1つだけ経口摂取している場合はLv3ですか？Lv4ですか？

A Lv3とLv4の場合があります。

解説

Lv3は医師・ST・ナースなどの専門職や介護スタッフ、誤嚥や窒息のリスクに配慮しながら少量の嚥下食を用いて対象者に嚥下訓練をしているという状態とします。

Lv4は嚥下食を50g～200g程度経口摂取しているが、一食分のカロリー（約300kcal以上）には不足しており、あくまで楽しみとして経口摂取しているという状態とします。

濃厚流動食専用半固形化補助食品

液状タイプの



粉末タイプの



【Lv4とLv5】

Q3 家では楽しみレベルでプリンやゼリーを1、2回経口摂取しているだけですが、週3回のデイケアで嚥下食（ゼリー食）を400gくらい経口摂取し、さらに昼に経管栄養を行っている場合はLv4ですか？Lv5ですか？

A Lv4とします。

解説

この場合「家ではLv4」、「デイではLv5」ですが、状態の低い方で評価します。細かいことをいうと摂食・嚥下能力のグレードの考え方ではGr5（一食は経口摂取ができる）となり、家ではレベル（している）とグレード（できる）が不一致ですが、デイでは一致していると捉えることができます。

【Lv6とLv7】

Q4 3食経口摂取していますが、薬と水だけ経管栄養（胃ろう）から注入しています。Lv6ですかLv7ですか？

A Lv6とします。

解説

身体が必要をしているものを経口以外の手段を使用しているため、Lv6とします。

【Lv5とLv7】

Q5 1日2食の嚥下食を経口摂取しており、それで水分、カロリーに不足がなく、代替栄養を行っていない場合はLv5ですか、Lv7ですか？

A Lv7とします。

解説

1日の水分・栄養を全て経口摂取のみで摂取してかつ安定している状況ではLv7とします。

【Lv7とLv8】

Q6 いわゆるソフト食を経口摂取している人はLv7ですかLv8ですか？

A Lv8とします。

解説

ミキサー食、ゼリー食に比較すると摂食・嚥下の難易度が高いと判断し、Lv8に入れることとします。レベル評価で「嚥下食はミキサー食、ゼリー食」と定義しています。

Q7 3食経口摂取していますが、水やお茶など、水分のみにトロミをつけている場合はLv7ですか？Lv8ですか？

A Lv8とします。

解説

水や水分そのものをさけてトロミ水を飲んでいるという解釈で「特別食べにくいものを除く」という意味に含まれますのでLv8とします。

【Lv8とLv9】

Q8 義歯不適合や義歯を所持していないために、硬いものが摂取できません。飲み込み自体はよいので水でむせることはありません。Lv9ですか？

A Lv8とします。

解説

口腔機能の問題で硬いものを避けている場合は、特別食べにくいものを除いているという解釈で摂食・嚥下障害ありという判断でLv8とします。

Q9 常食を頻回にムセながらたべている人はLv9ですか？

A Lv9とします。

解説

摂食・嚥下能力グレードではGr7（嚥下食ならば3食経口摂取可能）の人と考えられます。しかし、現在の摂食レベル状態としてはLv9で、持っている能力（グレード）よりも実際に食べている状況（レベル）が高いためハイリスク患者と考えられます。

【Lv9とLv10】

Q10 以前に摂食・嚥下障害があり治療を受けていたが、現在は治療も終了しており、全く症状もなく普通食を3食経口摂取している場合はLv9ですかLv10ですか？

A Lv10とします。

解説

現在の摂食状況を評価するため、Lv10とします。臨床上にむせる、のどに残った感じがする、食べにくいなどの症状がある場合は摂食・嚥下障害ありとしてLv9とします。

【Lv6とLv10】

Q11 内科疾患などで入院して常食を食べていますが、毎日1本点滴を受けています。三食経口摂取していますが、食欲不振で量は食べられていません。Lv6ですかLv10ですか？

A Lv6の場合とLv10の場合があります。

解説

摂食・嚥下状況のレベル評価はあくまでも摂食・嚥下障害がある方に対して行う評価です。常食を食べていてもむせや嚥下困難感など明らかな「摂食・嚥下障害を示す症状があって食べられない」のであればLv6とします。

一方、原疾患の治療で点滴を受けて、その副作用で食欲不振があって経口摂取ができていないという場合はLv10となります。

【一般的注意事項】

Q11でも述べましたが摂食・嚥下状況のレベル評価は「摂食・嚥下障害がある」という前提での評価基準です。元気に生活しているが「クローン病で経腸栄養を受けている」という場合は評価の本来は対象外です。一方、交通外傷などで意識障害があり寝たきりという場合は意識障害が摂食・嚥下障害の原因となりますので評価の対象となります。摂食・嚥下障害のない方にこの評価を無理矢理この表に当てはめようとすると混乱が生じますので注意してください。

ダマになりにくいトロミ調整食品

使いやすさの



強力タイプの

